



◀支部総会で、今後の方針を示す
 山口悟支部長



中部支部総会

「安全安心な遊技環境を」

山口支部長、積極方針を表明

中部支部は5月19日、名古屋市の名古屋ガーデンパレスで支部総会を開き、平成25年度活動報告、平成26年度活動計画などを承認した。山口悟支部長は総会冒頭のあいさつで「アベノミクスによる活性化や2020年東京オリンピック

開催など経済への好影響が言われていますが、消費税増税など予断は許されない状況があります。私たちの業界においても若年層のパソコン離れなど深刻です。より一層のレジャー化の方針を浸透させるために産業界は遊技産業活性化委員会を発足させ、安全安心な遊技環境の整備を推進しています。私たちが中部支部のめり込み対策、不正改造対策なども合わせて積極的にこの運動に参加していきたい」と決意を表明した。

来賓の庄司孝輝会長は「現在、遊技機のかかえる課題がホール営業の足かせになっている側面があります。バラエティーに富んだ本場に遊べる遊技機を作るために規制改正も含めて産業界が一体になら

なくてはならない。現在、全日遊連、日工組とともに新

しく開発の研究を続けていますが、ファンを取り戻すためにさらに強化していきたい」と方針を述べた。

副支部長に深谷太詞氏

活動報告と活動方針の承認のあと、かねてから支部活動を活性化させるための懸案事項だった副支部長の補強選出を行った。ホール会員の(株)フシミコーポレーションの深谷太詞(ふかやたかし)氏が推薦され全会一致で承認した。

新入会3社を歓迎して

第2部のセミナーでは、愛知県警生安部保安課 山本耕治課長補佐が「遊技産業の健全化について」と題し講話を行い、日遊協 篠原弘志専務理事が「業界の当面の諸問題について」、(株)コスモルーム研究所 宮武宣人部長が「巧妙化するゴトへの対処」と題し講演した。

第3部の懇親パーティーでは、新しく入会した(株)平成観光(東野昌一代表取締役社長)、(株)善都(都筑善雄代表取締役社長)、リサイクルテックジャパン(株)(高取美樹代表取締役社長)の3社が紹介され、それぞれ代表が挨拶した。会場は、ホール関連、販社関連などの役員の方々を招いての歓談でにぎやかだった。

札幌を福岡に訂正

7月2日の店長・管理職講習

本誌5月号16ページでお知らせした7月の店長・管理職能力開発講習の受講者募集記事の開催地で、「7月2日、札幌」とあるを「7月2日、福岡」と訂正します。同じ記事の中で「東京開催」についてはそのままです。

改めて7月の講習をお知らせします。

●7月2日(水)

福岡Ⅱ福岡県遊技会館

●7月24日(木)

東京Ⅱ日遊協本部会議室

いずれの場合も、午前10時開始午後5時半終了。受講料は日遊協会員1万7200円、会員以外2万2450円。希望者は申込用紙に記入して日遊協事務局に申し込む。申込用紙は日遊協ホームページ、または「講習」チラシのFAX申込書で取り寄せられる。定員に達すると締め切る。

日遊協ホームページ

<http://www.nichiyukyo.or.jp/>

日遊協事務局

電話03・35553・4333(代)

FAX03・35553・4334

総会のはじめに来賓のあいさつをする庄司孝輝会長



中国・四国支部総会

後藤信行支部長が3期目

「課題は多く一緒に取り組もう」

中国・四国支部は5月9日、広島市・メルパルク広島で平成26年度支部総会を開き、後藤信行支部長の再選を決めた。

総会のはじめに来賓としてあいさつに立った庄司孝輝会長は「消費税増税に対する措置が始まり、自

◀3期目就任の決意を語る後藤信行支部長



民党の風営法議連の動きなど産業界はまた新しい状況下にあります。私たちは娯楽遊技としてのスタンスを崩さずに進んでいかねばなりません。先

日の『フェスタ2014』で7000人を超える人々、若い人も多く集まりました

したがその元気な姿を見ていて、エンドユーザーへのPRが足りなかった」と改めて感じました。3つのスローガンをかかげた遊技産業活性化プロジェクトを強力に推進していかなければなりません。そのために日遊協はリーダーとしての役割りを果たして運動を発展させていきます。支部の皆様

します」と話した。

来賓としては中国管区警察局広島調整第一課・渡邊浩児課長と広島県警生安部生活安全総務課・後田良和管理官があいさつを行った。**監事に尾谷哲章氏**

議事に入り、平成25年度事業報告・決算報告と平成26年度事業計画・収支予算を承認したあと改選期に当たるため役員選出を行った。

後藤信行支部長以下石原雅文、松田高志、大饗裕記3副支部長など役員11名、監事1名が全員再選された。また、新しく尾谷哲章氏を

監事として選出し、監事2名体制となった。3期目に入った後藤支部長は「再三言われていますように、私たちの産業は多くの課題を抱えています。その課題をひとつずつ、産業全体で取り組み、解決していかなければなりません。私も微力ながら努力いたしますので、どうぞ一緒に頑張りましょう」と決意表明した。

本部から、伊東慎吾常務理事の「本部活動報告」、篠原弘志専務理事の「業界を取り巻く諸情勢」のスピーチのあと、セミナーとして深谷友尋前日遊協会長が「未来永劫業界発展のために」と題して講演

を行い、広島県警生安部生活安全総務課・三戸田信幸課長補佐と同・三好清志係長の講話があった。総会後の懇親会には、全日遊連の県遊協幹部をはじめ産業界からお客様を招き、にぎやかに歓談した。

貯玉補償基金理事会

事業報告・計算書類承認

一般社団法人貯玉補償基金（代表理事・深谷友尋日遊協相談役）は5月14日、日遊協本部会議室で第55回理事会を開き、2つの議案を審議した。

第1号議案は第8期（平成25年4月1日～平成26年3月31日）事業報告及び試算書類に関する件について全会一致で承認した。平成25年度の加盟ホールは5629店舗となり、前年比405店舗増となった。補償は1法人1店舗で実施し、福島原発立入禁止区域については求償を前提に2法人3店舗で実施した。第2号議案は「定款」の一部改正に関し、事業内容の要件、社員の遵守事項、資格などについて承認した。

報告事項としては、「加盟状況」「資金運用状況」「再プレー実施状況」などが説明された。

日遊協南三陸町ボランティア隊

ツルハシ振るい「きつい！」

新農地から岩石など取り除く

東京都・関東支部を中心に女性2人を含む日遊協ボランティア隊26人は5月17、18日、宮城県南三陸町で農業支援を行った。前日の16日に宮城県名取市で海岸防災林再生のための植林（別記）に参加し



災害ボランティアセンターの前で

たばかり。17日午前8時半に同町災害ボランティアセンターに行き、波伝谷（はでんや）地区での作業を指示された。同地区は半農半漁の80戸ほどの集落だったが、東日本大震災の津波で壊滅し、住民たちは高台に移転している。跡地は農地にするため、山から土を運んできて広々と整地されていた。今回行う農業支援は、この田畑予定地から岩石、ガラスなどの不純物を分別除去する作業。とくに石ころは耕作機械などを破損させてしまう大敵だ。

午前9時半に作業開始。ツルハシとスコップで深さ20cmほど掘り下げ、石ころなどを探す。土の塊はピッケルで砕く。ツルハシ作業は慣れないので、振るっているうちに腕や足腰が痛くなり、「キツイなー」と悲鳴がもれる。午後2時半に作業を終えた頃には全員くたくたになった。

翌18日、同町観光協会主催の「学



ツルハシやスコップをつかって、大きな石などを探す

びのプログラム」に参加した。「学びのプログラム」は震災を風化させないため、震災から学んだこと、教訓になったことを「語り部」ガイドが観光客に語り継ぐ企画。町の歴史、地理、人口から始まって、大震災での実体験が淡々と語られ印象的だった。帰途、同町志津川地区で仮設商店街「南三陸さんさん商店街」や3階建ての鉄骨だけが残る無残な同町防災対策庁舎跡に立ち寄った。（呉哲雄）

▽隊員 知念安光（社会貢献・環境対策委員会担当理事）、安岡晃宏、所久美子（以上株）プロテラス、横山芳、小泉優貴、中久保安美（以上、日拓ホーム株）、橋本大輝、宮城島鉄平（以上株）ABC、阿施浩行、大谷和也、伊藤信太郎（以上NEXUS株）、吉田豊、佐藤

慎治、福田博、四田正宏、下田辰彦（以上株）安田屋、大木慎一、豊川司、土井正行（以上株）千歳観光、馬宮正樹（東和産業株）、峰岸周、白戸伸一郎（以上サンキョー株）、赤岩悟、有川剛（以上株）金馬車、大石勝利（株）娯楽産業協会、呉哲雄（本部事務局）

ラスベガス研修ツアー

9月26日から6日間

定員40人で募集中

日遊協は9月26～10月1日、4泊6日の日程で「ラスベガス・シアトル研修ツアー」を企画、参加者を募集している。行程は9月26日午後成田発。日付変更線を通り越して同日朝シアトル着。シアトルで市内観光とボーイング工場を見学後、マリナーズ対エンゼルス戦を観戦（オプショナル）。27日にラスベガス入りしてダウンタウンを観光。28日はカジノホテル視察。29日は自由視察。30日にラスベガスを発ち、シアトル経由で10月1日午後成田着となっている。

費用は1人17万9800円（予定）。別にサーチャージ。募集人数40人。定員になり次第締め切る。申込先はJTB関東・法人営業埼玉支店（TEL048・644・5690 担当・中川）

「仙台共生の森」第2回植林

クロマツを777本

北海道からも参加し65人で

東日本大震災の津波で被災した海岸防災林を再生させる「緑のきずな再生事業仙台共生の森」の一環として、日遊協は5月16日、仙台空港東側の宮城県名取市下増田字台林国有林0・17ヘクタールでクロマツ777本を植林した。参加者は谷口久徳副会長（東北支部



◀「丈夫に育ってくれよ」と祈りながら

長）、松谷明良（北海道支部長）、知念安光（社会貢献・環境対策委員会担当理事）、白石良二（日遊協ボランティア総隊長）の3理事、社会貢献・環境対策委員会メンバー11人、東京都・関東支部ボランティア隊25人、東北支部同14人、北海道支部同4人、植林指導の埼玉県緑化推進委員会と埼玉森林サポータークラブ5人、事務局2人の計65人。

根を広げて土をかけ揺すったり踏んだり

前日の15日に一部が現地入りし、植林の下準備を行った。広々とした平地に材木で組んだ柵が並べて置かれて植林場所を区分していた。当日の16日はJR仙台

駅に近い日遊協東北支部から大型バスなどに分乗して現地に集合した。午前11時に開会式。谷口副会長、知念理事のあいさつの後、11時半に6班に分か

れて植林がスタートした。

まず、規則正しく測定された植林位置に長さ1mほどの目印の竹を刺し、苗木を置く。スコップやシャベルで竹のそばに30cm四方の穴を掘る。掘った土の一部を団子状に固めて穴の底に置き、その上に苗木の根を広げて置く。周りから土をかぶせて苗木を軽く上下に揺すり、最後に足で踏んで空気を抜く。

一連の手順の間、埼玉森林サポーターたちが、「あと少し深く掘ったほうがいいかな」「もつときつく踏み固めてください」などとコーチして回った。天候は曇り一時雨、のち晴れとまずまずで、作業は昼食をはさんで順調に進められ、午後4時前に終了した。

昨年の840本は順調に育っている

東日本大震災での海岸防災林の被災は青森県から千葉県にかけて約140kmとされている。林野庁は一昨年、「『みどりのきずな』再生プロジェクト」として植林を計画、NPOや団体・企業に活動参加を呼びかけ

た。日遊協は2008年から埼玉県嵐山町で進めている里山造成10年計画「共生の森」が植林過程を終えて整備期間に入ったことから、新たな社会貢献・地球環境整備活動として同プロジェクトに応じ、昨年5月に仙台市若林区荒浜地区0・16ヘクタールにクロマツ770本、ヤマザクラ70本を植林、現在、順調に育っている。

JUNE

6月の行事予定

5日(木)	10:00~17:10	取扱主任者講習・試験(新規)(大阪ガーデンパレス)
	13:00~14:00	東京都・関東支部総会(ハイアットリージェンシー東京)
	14:30~17:10	第25回通常総会(第1回定時社員総会)(同)
	17:15~17:40	記者会見(同)
	17:50~19:30	懇親会(同)
6日(金)	10:00~16:50	取扱主任者講習・試験(更新)(大阪ガーデンパレス)
	13:00~15:00	広報調査委員会
	15:30~17:30	人材育成委員会
	16:30~	貯玉補償基金社員総会・理事会(グランドアーク半蔵門)
13日(金)	15:30~17:30	社会貢献・環境対策委員会
17日(火)	15:00~17:00	遊技機委員会
19日(木)	10:00~16:50	取扱主任者講習・試験(更新)(博多サンヒルズホテル)
20日(金)	13:30~14:30	ゴト対策4団体会議(全日遊連)
23日(月)	10:00~16:50	取扱主任者講習・試験(更新)(ベルサール神田)
	15:00~	中古機流通協議会(全商協)
25日(水)	13:30~	遊技機リサイクル推進委員会(日工組)
26日(木)	13:30~16:30	救命講習会
27日(金)	14:30~19:50	東北支部総会(パレスへいあん)